

教育に関する事務の管理及び執行の状況
の点検・評価結果報告書 (令和4年度対象)

令和5年8月

上峰町教育委員会

目 次

<教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価の概要>	1
1 根拠法	
2 点検及び評価の内容	
3 点検及び評価の方法	
4 点検及び評価の経過	
5 今後の予定	
<教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価の結果>	2
1 上峰町教育委員会の運営及び活動状況	2
（1）上峰町教育委員会の運営状況	2
① 教育委員会	
② 教育委員会事務局	
（2）上峰町教育委員会の活動状況	4
① 教育委員会会議の開催状況と審議概要	
② 活動の状況	
ア 総合教育会議への出席	
イ 学校等教育現場への訪問	
ウ 視察・研修会等への参加	
エ 各種会議・行事等への出席	
2 令和4年度主な事業・取組の評価シート	7
（上峰まちづくりプラン後期分野別計画に掲げる主要施策及び主な取組）	
（1）教育課所管分	7
（2）生涯学習課所管分	15
（3）文化課所管分	23

<教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価の概要>

1 根拠法：「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の内容

- (1) 令和4年度上峰町教育委員会の運営及び活動状況
- (2) 上峰まちづくりプラン後期分野別計画に掲げる主要施策及び主な取組

3 点検及び評価の方法

上峰町教育委員会の運営及び活動状況、主要施策及び主な取組について、実績並びに成果と課題等を取りまとめ自己評価を行った後、教育に関する学識経験者（重松隆氏：元小学校校長、元佐賀県教育センター研究員）からの外部評価。

4 点検及び評価の経過

- (1) 令和5年 6月中旬～7月中旬 令和4年度主な事業・取組の評価シート作成
- (2) 令和5年 6月中旬 学識経験者への外部評価の依頼
- (3) 令和5年 7月中旬～下旬 自己評価の実施
- (4) 令和5年 7月下旬～8月上旬 学識経験者による外部評価の実施
- (5) 令和5年 8月上旬 点検評価報告書の作成
- (6) 令和5年 8月下旬 臨時教育委員会により点検評価報告書の審議及び承認

5 今後の予定

- (1) 令和5年9月上旬 上峰町議会に点検評価報告書を提出
- (2) 令和5年9月上旬 点検評価報告書を上峰町教育委員会ホームページにて公表

＜教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価の結果＞

1 上峰町教育委員会の運営及び活動状況

(1) 上峰町教育委員会の運営状況

① 教育委員会

役職名	氏名	任期(当初就任年月日)
教育長	野口敏雄	R 3. 4. 2~R 6. 4. 1 (H30. 4. 2)
教育長職務代理者	平川未代	R 4. 4. 1~R 8. 3. 31 (H30. 4. 1)
教育委員	馬場紘彦	R 2. 4. 1~R 6. 3. 31 (H24. 10. 27)
教育委員	平川利彦	R 3. 4. 1~R 7. 3. 31 (H27. 4. 1)
教育委員	片渕賢司	H31. 4. 1~R 5. 3. 31 (H31. 4. 1)
教育委員	衛藤知子	H31. 4. 1~R 5. 3. 31 (H31. 4. 1)
教育委員	原晋介	R 3. 4. 1~R 7. 3. 31 (H27. 4. 1~ H31. 3. 31)
教育委員	松井結華	R 2. 4. 1~R 6. 3. 31 (R 2. 4. 1)
教育委員	鶴田光代	R 4. 4. 1~R 8. 3. 31 (R 4. 4. 1)

令和 5 年 3 月 31 日現在

② 教育委員会事務局

課名	担当事務
教育課 (8 人)	1 教育委員会の会議に関すること。 2 事務局、学校その他の教育機関の職員の任免、分限及び懲戒に関すること。 3 教育予算その他議会の議決を経るべき議案に対する意見の申出に関すること。 4 工事計画の策定及び教育財産の取得の申出に関すること。 5 教育機関の設置、管理及び廃止に関すること。 6 教育財産の管理に関すること。 7 教育委員会規則の制定及び改廃に関すること。 8 請願、陳情書等の処理に関すること。 9 公告式に関すること。 10 公印の看守に関すること。 11 文書の收受、発送及び編さんに関すること。 12 学校給食に関すること。 13 児童及び生徒の就学に関すること。 14 その他の学校教育に関すること。 15 いじめを根絶する取組に関すること。 16 子ども安全パトロールに関すること。 17 その他の子どもの安全に関すること。 18 総合教育会議に関すること。

	<p>19 前各号に掲げるもののほか、他係の所掌に属しないこと。</p> <p>20 県費負担教職員の服務に関する事。</p> <p>21 県費負担教職員の研修及び福利厚生に関する事。</p> <p>22 県費負担教職員の任免、分限及び懲戒の内申に関する事。</p> <p>23 学級編制に関する事。</p> <p>24 教育内容及びその取扱いに関する事。</p> <p>25 教科書その他教材の取扱いに関する事。</p> <p>26 学校保健に関する事。</p> <p>27 学校安全に関する事。</p> <p>28 その他の教育指導に関する事。</p>
生涯学習課 (6人)	<p>1 社会教育機関の運営に関する事。</p> <p>2 生涯学習審議会委員の任命並びにそれらの会議に関する事。</p> <p>3 社会教育関係団体の指導育成に関する事。</p> <p>4 講座の開設及び討論会、講習会、研修会、講演会、展示会その他の集会の開催並びにこれらの奨励に関する事。</p> <p>5 社会教育資料の刊行及び配布に関する事。</p> <p>6 社会教育のために必要な設備、及び資料の提供に関する事。</p> <p>7 情報の交換及び調査研究に関する事。</p> <p>8 視聴覚教育に関する事。</p> <p>9 視聴覚ライブラリーに関する事。</p> <p>10 青少年育成に関する事。</p> <p>11 地域のおじさん、おばさん及び110番の家に関する事。</p> <p>12 命の大切さ、子どもたちの心を鍛える事業に関する事。</p> <p>13 子どもの悩み相談室に関する事。</p> <p>14 その他の社会教育に関する事。</p> <p>15 スポーツ振興審議会及びスポーツ推進委員会の委員の任命及びそれらの会議に関する事。</p> <p>16 体育スポーツ指導者養成及び体制の確立に関する事。</p> <p>17 体育スポーツ関係団体の育成に関する事。</p> <p>18 住民スポーツの生活化に関する事。</p> <p>19 スポーツ事故に関する事。</p> <p>20 スポーツ施設及び設備に関する事。</p> <p>21 前各号に掲げるもののほか、スポーツ振興に関する事。</p>
文化課 (10人) 図書司書等 4人を含む	<p>1 文化財の保護に関する事。</p> <p>2 図書館に関する事。</p> <p>3 歴史資料の保管及び整理に関する事。</p> <p>4 文化及び芸術の向上に関する事。</p> <p>5 その他文化の伝承に関する事。</p>

令和 5 年 3 月 31 日現在

(2) 上峰町教育委員会の活動状況

① 教育委員会会議の開催状況と審議概要

会議種別	開催期日	主な審議事項
臨時会	R 4. 4. 1	令和4年度教職員辞令交付式の打合せ
定例会	R 4. 4. 26	就学援助認定審議 今年度の日韓交流事業について
定例会	R 4. 5. 25	6月補正予算について 6月議会上程議案「動産の買い入れ」について
定例会	R 4. 6. 29	6月定例議会報告 就学援助認定審議 上峰小学校教育の今後について①
定例会 (書面)	R 4. 7. 27	小・中学校からの1学期学校経営報告 9月補正予算について
臨時会	R 4. 8. 17	令和3年度教育事務の管理及び執行の点検評価結果 小学校正門等改修工事の進捗について 上峰小学校教育の今後について②
定例会	R 4. 9. 28	9月定例議会報告 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について 上峰小学校教育の今後について③
定例会	R 4. 10. 26	上峰町立小、中学校の管理に関する規則の一部改正 中心市街地アリーナPJ進捗状況
定例会	R 4. 11. 22	12月補正予算について 総合教育会議について 令和5年度市町立小中学校教職員人事異動方針について
定例会	R 4. 12. 26	小・中学校からの2学期学校経営報告 12月定例町議会報告 就学援助認定審議
定例会 (書面)	R 5. 1. 25	令和4年度末教職員人事異動進捗状況の報告 令和4年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果報告 就学援助認定審議 令和5年度当初予算における主な歳出について 上峰町中学校部活動地域移行協議会設置要綱について
定例会	R 5. 2. 28	令和5年度上峰町教育方針について 令和4年度末小・中学校教職員管理職付議について 上峰町入学祝金支給条例一部改正する条例案 教育機関の誘致について
定例会	R 5. 3. 22	小・中学校からの令和4年度学校経営報告 令和4年度末教職員人事異動学校出入報告 上峰町図書館の管理及び運営に関する規則の一部改正案 就学援助認定審議

② 活動の状況

ア 総合教育会議への出席

開催期日	協議事項
総合教育会議 R 5. 2. 28	1 新型コロナ感染状況について 2 放課後児童クラブについて 3 教育行政に関する事項の懇談

イ 学校等教育現場への訪問

期 日	訪問先	期 日	訪問先
R 4. 4. 23	小学校土曜開校、PTA 総会	R 4. 11. 6	小学校土曜開校・上小祭り
R 4. 5. 2	中学校授業参観、PTA 総会	R 4. 11. 9	東部教育事務所小学校訪問
R 4. 7. 11	東部教育事務所上峰中訪問	R 4. 11. 12	中学校授業参観・PTA 行事

* 中止… かみみね幼稚園、ひかりこども園、ひよこ保育園訪問

ウ 視察・研修会等への参加

期 日	視察先・研修会名
R 4. 4. 18	佐賀県教育委員会・市町教育委員会協働会議
R 4. 4. 28	佐賀県市町教育長会連合会春季定期総会・研修会
R 4. 5. 16~17	全国町村教育長会定期総会・研究大会
R 4. 7. 1	佐賀県市町教育委員会連合会定期総会・研修会
R 4. 7. 15	三神地区教育委員会連絡協議会総会・研修会
R 4. 10. 7	佐賀県市町教育委員会連合会役員現地研修会
R 4. 10. 28	佐賀県市町教育長会連合会秋季総会・研修会

エ 各種会議・行事等への出席

期 日	会議名・行事名
R 4. 4. 1	教職員辞令交付式
R 4. 4. 17	鎮西山ふれあいの森フェスタ（為朝ウォーク・トレイルラン）
R 4. 4. 12	上峰小・中学校入学式…町長、議長、評議員、教育委員
R 4. 4. 23	佐賀バレーナース上峰町マッチデー
R 4. 6. 24	小学校稲作体験学習田植え体験活動
R 4. 7 中止	町青少年育成地区懇談会（19 公民分館）
R 4. 8 中止	日韓友好上峰中学校のヨジュ市訪問
R 4. 9. 10	中学校体育大会（午前中）…町長、議長、評議員、教育委員
R 4. 10. 2	小学校体育大会（午前中）…町長、議長、評議員、教育委員
R 4. 10. 9 中止	町民体力つくりスポーツ大会
R 4. 10. 15~ 中止	県民スポーツ大会（武雄～嬉野～白石～鹿島～太良）開催

R 4. 10. 29	中学校文化発表会…町長、議員、評議員、区長会長、教育委員
R 4. 11. 1	小学校稲作体験学習稲文字稲刈り活動体験
R 4. 11. 3	上峰町民文化祭演芸発表
R 4. 11. 7	子ども議会
R 4. 11. 14	青少年育成大会（アルモニア管弦楽団）
R 4. 12. 23	レオブラックス・レオナイナースバスケットボール教室
R 4. 12. 24	佐賀県出身プロ野球県人会少年野球教室
R 5. 1. 8	上峰町二十歳のつどい（第73回上峰町成人式）
R 5. 1. 28～29	鎮西山城シンポジウム・現地説明会
R 5. 3. 10	中学校卒業証書授与式（町長、議長、区長会長）
R 5. 3. 17	小学校卒業証書授与式（町長、議長、区長会長）

令和4年度主な事業・取組の評価シート

事業名・取組名				主要施策	特別なニーズに対応した教育の推進		
スクールカウンセラー配置事業				所管課	教育課		
				費目	事務局費		
事業費(千円)	2,036	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
				369			1,667

目標	児童生徒一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、進展する社会に創意を持って対応し、文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。
目的や内容	いじめや不登校等、生徒指導上の諸問題への対応は、学校において重要な課題である。このため、児童・生徒の臨床心理に関して高度な専門的知識・経験を有するスクールカウンセラーを派遣し、もって学校におけるカウンセリング機能の充実を図る。
実績等	<p>小学校280時間、中学校280時間、スクールカウンセラーによる児童・生徒や保護者への相談活動、教職員への支援・助言、関係機関や地域の援助機関との連携等を行った。</p> <p>対象者別件数 児童・生徒 188件(前年115件)、保護者 101件(前年95件)、 教職員 53件(前年220件)</p> <p>事業費内訳 県費補助事業 220時間 1,120千円 (補助369千円 一財 751千円)(小学校) 町費単独事業 180時間 916千円 (小・中学校) 県費負担事業 160時間 - (中学校)</p>
成果と課題	<p>不登校傾向や対人関係の問題についてのカウンセリングは継続も含め希望者も多く、また、問題改善の方向性も出るなど成果を上げた。</p> <p>配慮を要する児童・生徒やその保護者については、ケース会議を実施するが、その中でスクールカウンセラーとの連携は重要な位置を占めており、スクールカウンセラーの助言は重要な示唆を与えてくれる。</p> <p>スクールカウンセラーに繋がらないケースもあり、担任以外とはかかわりを持つことを好まない保護者の支援や保護者が相談に行きやすい時間の設定が引き続き課題であるが、カウンセリングの時間数が増え、相談数は増えている。</p>

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	中学校は生徒と保護者からの相談件数が増加しているが、県費補助事業に加え、町費単独及び県費負担事業の加算により、案件内容を丁寧にカウンセリングすることができた。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	不登校傾向や対人関係の問題についてのカウンセリングは継続も含め希望者も増え、問題改善の方向性も出るなど成果が上がっている以上、今後も予算を増やして更に推進してほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

				主要施策	特別なニーズに対応した教育の推進			
事業名 ・ 取組名	特別支援教育就学奨励費補助 要・準要保護就学援助			所管課	教育課			
				費目	教育振興費			
事業費 (千円)	9,393	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
			1,028				8,365	

目 標	児童生徒一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、国際的視野に立ち、進展する社会に創意を持って対応し文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。
目的や内容	特別支援教育を要し、又は経済的な理由によって就学困難な児童又は生徒の保護者に対し、必要な援助を与えることにより義務教育の円滑な実施に資するため、次に掲げる費目を予算の範囲内で援助する。 (1)学用品費等 (2)校外活動費(宿泊を伴うもの・伴わないもの) (3)修学旅行費 (4)新入学児童生徒学用品費 (5)医療費 (6)学校給食費
実績等	特別支援教育を要し、又は経済的な理由によって就学困難な児童又は生徒の保護者に対し、必要な援助を行った。 特別支援教育就学奨励費補助事業 小学校 41人 1,460,551円 (前年度 37人 1,295,126円) 中学校 10人 596,950円 (前年度 11人 533,939円) 計 51人 2,057,501円 (前年度 48人 1,829,055円) 要・準要保護就学援助 小学校 52人 3,662,362円 (前年度 53人 3,762,594円) 中学校 33人 3,673,027円 (前年度 30人 3,104,977円) 計 85人 7,335,389円 (前年度 83人 6,867,571円)
成果と課題	全児童・生徒の保護者宛に学校を通して、制度を知らせるチラシを配布することで制度の周知徹底を図った。認定に当たっても所得金額のみで一律に判断するのではなく、児童・生徒の日常生活及び家庭の諸事情について、学校等から情報収集を行うとともに、申告による所得確定後に再度調査を行い認定の確定を行った。 認定にあたっては総合的に判断して認定することとなっており、周知及び受付時において今後も丁寧な取り扱いを徹底する。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	全児童生徒の保護者への周知徹底により、広く制度を活用することができた。 認定においても、教育委員会で適切に審議が行えるよう学校や民生委員からの情報収集に努めた。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	制度の周知徹底を図り、就学困難な児童又は生徒の保護者に対し必要な援助を与えることにより義務教育が円滑に実施されていることは素晴らしい。認定においても適切に審議がなされ、今後も丁寧な取扱いを徹底されることを望みたい。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

				主要施策	時代の要請に応える質の高い教育の推進			
事業名 ・ 取組名	小中学校オンライン英会話委託			所管課	教育課			
				費目	先進的教育推進費			
事業費 (千円)	6,677	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
						6,677		

目標	児童生徒一人ひとりに豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、グローバル化の進展の中、国際的視野と創意をもって、文化の創造や産業の振興等に取り組み、社会や地域の発展に貢献できる、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。
目的や内容	初等教育段階からのグローバル化に対応した英語教育を進めるため、平成27年度から取り組んできた本事業を昨年度は中学校にも事業の拡充を図った。今年度も小学3年生から中学校3年生まで7学年にわたり、英語圏(フィリピン)現地講師とリアルタイムで繋いだオンライン英会話授業を展開した。小学3・4年生はクラス一斉授業方式で行い、小学5年～中学3年はマンツーマンによるオンライン英会話レッスンを実施した。
実績等	昨年度から小学校(3～6年生)に加え、対象学年を中学校全学年まで拡大した(公立では佐賀県内初)。今年度は中学校の時数を少し増やし、児童生徒一人当たり、小学3・4年年間5回、5・6年9回、中学1年8回、2年8回、3年6回実施し、1コマあたり25分間のレッスンを実施した。事前に現地の担当者等とオンラインで毎回のレッスン内容の綿密な打ち合わせを行い、教科書や通常の授業内容に完全準拠したレッスンを行った。
成果と課題	<p>中学校新学習指導要領(英語科)では、「話すこと」の領域、特に「即興で話す力」の育成にますます力を入れることとされている。オンライン英会話事業を中学校でも実施することにより、小学校で培ってきた土台を基に、求められる上記の力を小中連携して向上させる手立てが固まったと言える。児童生徒は積極的にレッスンに取り組んでおり、事後アンケートでも8割以上の児童生徒が「レッスンが楽しかった。来年も受けたい。」と答えており、プラス評価が大変多かった。小学校で「聞く・話す」活動に慣れ、中学校入学時ではすでに抵抗なく外国人と英語でコミュニケーションを取ることができている。レッスン内容を教科書準拠とし、加えて毎回のレッスンの個人評価を提供してもらうことで普段の授業との連携が図られており、総合的な英語力の向上にも寄与している。</p> <p>また昨年度、課題として挙げた「聞く・話す力の検証」については、来年度の本格的実施に向けて小5対象に「GTEC」のトライアル受検を実施した。加えて不登校の児童生徒を対象に、子ども支援センターにおいてオンライン英会話受講を数回実施した。</p>

	評価の結果	評価の理由
自己評価	達成	中学校の時数を増やし、レッスン内容も綿密な事前打ち合わせにより、小中ともより一層充実した楽しいものになった。本事業の具体的な評価方法の一つとして、小5対象に「GTEC」トライアル受検を実施し、来年度に向けてある程度の道筋をつけることができた。また子ども支援センターでのオンライン受講を可能にし、不登校対策の一つの手立てとすることができた。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

	評価の結果	意見・指摘事項
学識経験者 評価	達成	初等教育段階からのグローバル化に対応した英語教育を進められていることには感心する。小学校での「聞く・話す」活動に慣れ、中学校入学時ではすでに抵抗なく外国人と英語でコミュニケーションを取ることができていることにも非常に素晴らしいことである。「即興で話す力」の育成にますます力を入れられることを期待する。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和4年度主な事業・取組の評価シート

				主要施策	「生きる力」の確実な育成		
事業名 ・ 取組名	中学校放課後補充学習委託			所管課	教育課		
				費目	先進的教育推進費		
事業費 (千円)	10,210	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
						10,210	

目標	生徒の基礎学力の定着、苦手分野の克服、学習意欲の向上、個性や才能を伸ばす機会を提供する。
目的や内容	本町在住の中学生の基礎学力の定着、苦手分野の克服、学習意欲の向上、個性や才能の伸長を目指し、放課後を活用した学習塾、家庭教師及び文化・スポーツ教室、福祉サービス等学校外教育サービスの利用等にかかる助成を行う。一昨年度から上峰中学校以外へ就学する生徒も対象とした。また、今年度から中学2年生も対象とし、中学校全学年で実施する。
実績等	平成30年度にスタートしたスタディクーポンの手法を取り入れた中学校放課後補充学習においては、引き続き一人あたり3万円分(上峰中学校以外へ就学する生徒は1万5千円)の予算を確保し、生徒が希望した塾や習い事・福祉サービス等でクーポン(昨年度より電子クーポン)が使えるよう事業者の登録を行った。また、今年度からは中学2年生を対象に加え、中学校全学年で実施した。学校での夏期・冬期講習を廃止し、新たに「3万円専用コース」を設け、通塾等を始めていない生徒等が活用しやすいように工夫をした。 ○利用実績 【中1】参画事業者利用55名、3万円専用コース利用28名、未利用15名 (計 98名) 【中2】参画事業者利用50名、3万円専用コース利用26名、未利用18名 (計 94名) 【中3】参画事業者利用66名、3万円専用コース利用25名、未利用16名 (計107名) 【中1(町外)】参画事業者利用5名、未利用3名 (計 8名) 【中2(町外)】参画事業者利用5名、未利用2名 (計 7名) 【中3(町外)】参画事業者利用5名、未利用5名 (計10名)
成果と課題	今年度の放課後補充学習(スタディクーポン)事業では、中学2年生も対象とし、全中学生にクーポンの提供ができたことが最も大きな成果である。事後アンケートでは、多くの保護者から喜びや感謝の声が届いている。また、新規の事業者へのリクエストについても20件中15件の登録が叶い、合計77事業者の登録となった。しかし登録に至らずクーポンを利用しなかった生徒もいたため、今後もより多く登録できるよう事業者への働きかけが重要である。 課題としては、利用率の低下が挙げられる。上峰中学校の利用率は83.6%となり、昨年度(93%)を10%下回った。原因は、昨年度は33%の生徒が利用した「夏期・冬期講習」(学校のパソコン室で実施)を廃止したことが大きい。廃止に至った理由は、①夏季休業期間の短縮やコロナ禍の制限のため、今までのような講習期間が確保できないこと ②全生徒への拡大による参加者の大幅増への対応が難しくなったこと ③教育委員会任せでなく保護者が自ら動くという意識を高めることが大切と考えたことが挙げられる。短期間で解決できる課題ではないため、今後も粘り強い取り組みをしていきたい。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	<ul style="list-style-type: none"> ・利用率は昨年度より10%下がったものの、保護者が自ら動いて子どもにサービスの利用をさせた割合は58.9%→83.6%と大幅に増加しており、個々の生徒のニーズに合ったサービスの提供という面では一定の成果を上げている。 ・生徒、保護者への利用者アンケートの結果で、中学2年生も含め、「とても助かっている」「今後も続けてほしい」という意見が多かった。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	<p>「生きる力」の確実な育成に向けて、生徒の基礎学力の定着、苦手分野の克服、学習意欲の向上、個性や才能を伸ばす機会を与えるのは、素晴らしいことである。夏季休業期間の短縮やコロナ禍の制限で利用率の低下があげられるが、一定の成果が上げられているので実施の方法を工夫されたし。</p>
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

				主要施策	「生きる力」の確実な育成		
事業名 ・ 取組名	学校給食費補助 おいしい給食補助 学校給食調理業務委託			所管課	教育課		
				費目	事務局費、学校給食費		
事業費 (千円)	75,221	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
						1,000	74,221

目 標	児童生徒一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、国際的視野に立ち、進展する社会に創意を持って対応し文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。
目的や内容	学校給食は児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ児童生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものである。 学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導の実施により、学校給食の充実及び学校における食育の推進を図る。
実績等	学校給食及び食育の指導を次のとおり実施した。 ① 健康の保持増進のための適切な栄養摂取の必要性の理解を深める。 ② 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、望ましい食習慣を養う。 ③ 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養う。 ④ 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養う。 ⑤ 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養う。 ⑥ 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深める。 ⑦ 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導く。 また、学校給食と町ゆかりの鎮西八郎がコラボした町独自のスペシャルウィーク「為朝ウィーク」を実施し、為朝に縁のある土地の郷土料理を献立に取り入れた。
成果と課題	栄養教諭を中心に、適切な栄養の摂取による健康の保持増進に努めることができ、残食も問題となるような量には至っていない。さらに、食物アレルギーに対して、児童生徒の個別の状況に応じて対応した。 ただ、食物アレルギー対応や異物混入防止対応は一日も気を緩めることは出来ず、組織的にも万全を尽くさなければならない。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	常に、異物混入防止に努め、さらに、学校給食の本来的目的である食育への取組について引き続き努力したい。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	学校給食及び食育の指導において特別に町ゆかりの鎮西八郎がコラボした町独自のスペシャルウィーク「為朝ウィーク」を実施し、為朝に縁のある土地の郷土料理を献立に取り入れられたのは興味ぶかい。もちろん、異物混入防止にはさらに努めてほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

				主要施策	教育環境の整備		
事業名 ・ 取組名	部活動指導員活用事業			所管課	教育課		
				費目	教育振興費		
事業費 (千円)	1,615	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
				1,074			541

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 種目ごとの専門的な指導による部活動の充実 顧問である教員の多忙化解消
目的や内容	<p>部活動指導員の活用を通して、技術指導の専門性を高めるとともに、顧問の「多忙化解消」、「時間外勤務時間の縮小」を目的とする。</p> <p>具体的には、部活動指導員の参加を前提に部活動計画を立てたり、部活動指導員と教員が交代で休業日を設けたりしながら、安全かつ効率的で効果的な部活動運営を確立する。</p>
実績等	<p>(1) 専門外教員補填のための部活動指導員による「競技力向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動指導員による平日の部活指導 部活動指導員による休日の部活指導、練習試合引率、大会引率・ベンチワーク <p>(2) 時間外勤務時間(週休日)の縮減</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動指導員と顧問による活動計画、引率計画の作成。 部活動指導員が指導する日は、顧問は他の仕事をしたり、週休日を休養に充て顧問の時間外勤務時間を削減。
成果と課題	<p>(1) 専門外教員補填のための部活動指導員による「競技力向上」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 陸上部、卓球部、剣道部、野球部の運動部活動において、生徒の競技力が向上しただけでなく、あいさつや礼儀、マナーなど、生活面もよくなった。 男子卓球部においては、新人戦では団体で地区優勝を果たした。個人では1位から3位まで独占した。また夏の中総体でも個人・団体ともに県大会に出場した。 陸上部は試合に向けて必要な練習計画を部員に合わせて作成しており、県大会の決勝に残る生徒も出てきた。 吹奏楽部においては、佐賀県吹奏楽大会中学校B部門で金賞を受賞した。 <p>(2) 時間外勤務時間(週休日)の縮減について</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動指導員が単独で指導に入る日が増加したことで、顧問の時間外勤務が昨年度と比較し減少した。 週休日に顧問がリフレッシュでき、その結果平日の仕事の質が向上している。 R4年度に上峰中学校部活動地域移行協議会を立ち上げている。部活動指導員を主体として、R5年度からの週休日活動の地域移行に向けて、準備を進めている。

	評価の結果	評価の理由
自己評価	達成	校務に時間を取られ、部活動に参加できない場面がある中で、教員一人では賅いきれない活動も、部活動指導員がいることで、限りの時間に質の高い練習を行うことができている。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

	評価の結果	意見・指摘事項
学識経験者 評価	達成	「教職員の働き方改革」にとって一番重要視するところである。顧問の先生方の「多忙化解消」、「時間外勤務時間の縮小」に大いに活用してほしい。また、専門外教員補填のための部活動指導員による「競技力向上」やあいさつや礼儀、マナーなど生活面の向上にも成果が上がっている。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和4年度主な事業・取組の評価シート

令和4年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	教育環境の整備			
事業名 ・ 取組名	防音関連維持事業 小・中学校手洗い衛生水栓自動洗浄 化工事 中学校高圧受電設備改修工事 小学校体育館ミーティングルーム等 空調設備改修工事 小学校南校舎外灯設置工事 小学校正門等改修工事 他			所管課	教育課			
				費目	施設整備費、学校管理費			
事業費 (千円)	44,968	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
			2,527				42,441	

目 標	学校施設・設備の老朽化や劣化への対応、設備や教材・教具の整備充実などを図る。	
目的や内容	老朽化や劣化する学校施設及び設備について、適切な維持管理に努め安全安心な学校生活を提供する。 通年の維持管理に加え、長期的な視点に立った施設設備の充実も推進する。	
実績等	小・中学校の維持管理について、次のとおり実施した。 ・防音関連維持事業(空調電気代助成) 3,985千円 ・小・中学校手洗い衛生水栓自動洗浄化工事 2,988千円 ・中学校高圧受電設備改修工事 627千円 ・小学校体育館ミーティングルーム等空調設備改修工事 1,100千円 ・小学校南校舎外灯設置工事 182千円 事故繰越 ・小学校正門等改修工事(その1) 21,352千円 繰越明許 ・小学校正門等改修工事(その2) 14,734千円	
成果と課題	コロナウイルス等の感染症対策として、小、中学校の水栓の一部を非接触型に変更し、衛生環境の向上を図った。また、中学校高圧受電設備改修工事及び小学校体育館ミーティングルーム等空調設備改修工事を行い、老朽化した設備を更新し、学校施設機能の維持を図った。 2年度に渡り繰越を行っていた小学校正門等改修工事については、工事が竣工し、児童が安全に登下校できる環境が整備できた。 施設の維持管理については、点検報告等を基に、予防的な対応を含め適宜対応していく。	

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	小・中学校の施設・設備について、必要に応じ順次維持管理することが出来た。 懸案であった小学校正門等改修工事についても、小学校卒業式前に竣工することが出来た。
概ね達成		
やや不十分		
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	老朽化や劣化する学校施設及び設備について、必要に応じ順次維持管理することができている。特に注目すべきは小学校の校門等の整備である。道路からの進入口を広く取り、坂道の傾斜を緩やかにしたり、車の進入や駐車場の確保するなど、児童の安全に考慮しており、立派な改修工事であったと思う。
概ね達成		
やや不十分		
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

令和4年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	時代の要請に応える質の高い教育の推進		
事業名 ・ 取組名	ICTを利用した教育 (GIGAスクール)			所管課	教育課		
				費目	先進的教育推進費		
事業費 (千円)	9,637	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
						7,824	1,813

目標	多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを学校現場で持続的に実現させるため、児童生徒1人1台端末を整備する。
目的や内容	GIGAスクール構想による一人一台タブレット端末を整備し、タブレット端末やタブレット用教材を利活用した授業や家庭学習の充実を図る。
実績等	<p>児童生徒1人1台端末整備のため、令和3年度に引き続きタブレット端末及び端末で使用する教材(タブレットドリル)の整備を行った。また、家庭での通信環境の確保のためWi-Fiルーターの貸出を行い、同時双方向型のオンライン授業や授業のライブ配信等に必要環境の充実を図った。</p> <p>【使用料及び賃借料(ライセンス使用料)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットドリル 1,132千円 <p>【役務費(通信運搬費)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fiルーター通信料 681千円 <p>【備品購入費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットパソコン関連備品 7,824千円
成果と課題	<p>児童生徒1人1台端末の整備が完了し、ソフト面では、タブレットドリルを導入した一方、タブレット端末を使用する中で、インターネットへの同時接続台数が制限される事象が生じており、インターネット回線の帯域の確保が課題であった。</p> <p>このような状況を解消するため、より安定した接続方法(PPPoE方式⇒IPoE方式)へ変更したが、思ったような効果を得ることができず、依然としてインターネット回線の帯域の確保が課題として残っている。</p> <p>今後、光回線を1回線増設し、児童生徒用端末の回線とその他機器の回線を物理的に分けることで回線の負荷を分散し、インターネット回線の帯域を確保する対策を講じたい。</p>

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	児童生徒1人1台端末を整備はでき、タブレット用教材を利活用した授業の環境は整えることができた。しかしインターネットの接続制限という課題が解決するため、対策を講じたが、思ったような効果が得られなかった。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	児童生徒1人1台端末の整備が完了しているが、依然としてインターネット回線の帯域の確保が課題として残っている。接続方法には不案内ですので、私には解決方法は分かりませんので専門家に問い合わせ解決策を考えてほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

				主要施策	生涯学習関連施設の適正管理・利用促進		
事業名 ・ 取組名	町民センターの管理・運営			所管課	生涯学習課		
				費目	社会教育施設費		
事業費 (千円)	44,916	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
						3,771	41,145

目 標	住民一人ひとりが生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果をそれぞれの生活に生かすことができる生涯学習社会の実現を目指す。特に、すべての町民がニーズに応じて自主的に学習活動を行い、その成果が適切に評価され、自らの生活はもとより、地域社会へ還元される学習環境づくりを図る。
目的や内容	町民センターの適正管理及びサービスの向上に努め、利用促進を図る。町民センタートイレ洋式化・会議室等LED化・図書室空調設備・ホール音響設備改修工事、非常用放送設備更新工事、手洗い衛生水栓自動洗浄化工事を行い、施設的环境を整備する。また、施設の使用については、引き続き利用促進を図るために、丁寧な対応を行い気持ちよく利用して頂く。
実績等	町民センターについては、トイレ洋式化9器、会議室等LED化7室、手洗い衛生水栓11器、図書室空調設備・ホール音響設備改修工事、非常用放送設備更新工事を行った。また、利用者が快適に利用することが出来るよう常に丁寧な対応を行ってきた。利用者数は、新型コロナウイルス感染症対策を講じて利用制限を行わなかったこともあり、令和3年度20,621名から令和4年度23,474名へと増加した。
成果と課題	すべての町民が、安全・安心に利用できる環境づくりに向け、トイレ洋式化・図書室空調設備・ホール音響設備改修工事、非常用放送設備更新工事、手洗い衛生水栓自動洗浄化工事を行った。施設の劣化状況を鑑み、会議室の照明器具をLED化改修し、中長期的な維持管理費用を削減する計画である。また今後についてもウイズコロナを見据えながら感染防止対策を講じ、町民が利用しやすく、人が集まる場所となるように施設利用の広報活動を行う必要がある。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、感染状況を鑑みながら管理運営を行ったが、前年度より利用者数は増加し、年度当初の計画的な改修工事や突発的な補修、改修工事に対応して、すべての町民が安全安心に利用できる環境づくりを推進することができた。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	コロナ禍中で感染防止対策を講じ、感染状況を鑑みながらの実施の中で、前年度より利用者数が増加したことは成果が上がったと考えられる。また、年度当初の計画的な改修工事や突発的な補修、改修工事に対応でき、町民が安心安全に利用できる環境づくりに寄与されたことは大いによかった。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

				主要施策	町民の自主的な学習活動の活発化			
事業名 ・ 取組名	ふれ愛・粋いきセミナー、女性セミナー (公民館教室)			所管課	生涯学習課			
				費目	社会教育総務費			
事業費 (千円)	176	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
				60			116	

目 標	住民一人ひとりが生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果をそれぞれの生活に生かすことができる生涯学習社会の実現を目指す。特に、すべての町民がニーズに応じて自主的に学習活動を行い、その成果が適切に評価され、自らの生活はもとより、地域社会へ還元される学習環境づくりを図る。
目的や内容	町民ニーズの動向や本町の特色・資源、社会・経済情勢の変化を踏まえ、特色ある講座・教室として、ふれ愛・粋いきセミナー、女性セミナー講座・教室を行い、「楽しく学習した」「勉強になった」など、「参加して良かった」「学習したことを役立てたい」と言われるような取組を行う。
実績等	新型コロナウイルス感染防止対策を講じて、6月からふれ愛・粋いきセミナー、女性セミナー講座・教室を17回計画し、すべて実施したため延べ参加者数は、令和3年度172名から令和4年度303名へ増加した。毎回好評の地元内科医による健康教室を開講式として開催し、88名の参加があった。講座参加者の要望により、食育指導士による有機栽培と暮らし方を特別講座として開催し、好評であった。
成果と課題	教室の開催数は、令和3年度15回から令和4年度17回に増加し、参加者数も増加したものの現地視察研修は控えて実施した。今後については、町民のニーズや声を反映させて内容を検討し、より講座に参加しやすい土・日曜日開催や講座内容の幅を広げた計画を組み入れて学習の機会を充実させていく必要がある。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	コロナ禍において厳しい状況の中、感染防止対策を講じながら修了式を含め17回の講座や教室を開催することができた。参加者は172名から303名と増加したものの、内容の精査・充実に努め、安全・安心な教室を開催していく必要がある。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	コロナ禍において厳しい状況の中、昨年より2回多い17回の講座や教室が開催できたことは評価できる。参加数も172から303と増加しこの事業は盛会なり。講座や教室は参加することに意義があり、勉強の機会を町の広報だけでなく口コミでも宣伝されたらと思う。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

				主要施策	青少年健全育成		
事業名 ・ 取組名	青少年育成地区懇談会 (青少年育成町民会議事業)			所管課	生涯学習課		
				費目			
事業費 (千円)	0	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源

目 標	青少年が家庭や地域における人のつながりを大切にする心や人を思いやる心、命を大切にする心を持ち、心身ともに健全に育つよう、家庭・学校・地域・行政等の連携強化のもと、積極的に健全育成活動を推進していく。
目的や内容	地域のみinnで、子どもたちを守り育てるためにはどうすれば良いのかを考えるために、分館ごとに特に夏季休業を前に懇談会を開催し、子どもたちを巡る課題を共有し、地域住民の意識を高める。
実績等	令和4年度の地区懇談会については、町内における新型コロナウイルス感染者数の増加が確認されたことに伴い、感染拡大防止を最優先させて中止を決定した。なお、各分館における子どもの健全育成に関する情報の収集や対応については、小・中学校、駐在所、役場等関係機関にて情報共有している。
成果と課題	地域の子どもたちの育て方について考える機会を設けることにより、子どもの健全育成への意識が高く持てるようになると考えられる。令和4年度は、合同開催を含めた各19分館での懇談会を計画していたが、より多くの方々に参加していただくために、工夫を重ねて魅力ある懇談会にしていく必要がある。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	中止となったものの、分館長の意見を参考にしながら子どもの健全育成を協議することができた。今後については、地区懇談会の内容の精査・充実に努め、継続事業として開催していく必要がある。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	懇談会が中止になったことは残念だったが、去年と同様分館長の意見を参考にしながら子供の健全育成を協議されたのことですね。何だか寂しい気もします。ウィズコロナ中でより多くの方々に参加していただくように、工夫を重ねて魅力ある懇談会にしていく必要があることは同感です。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

令和4年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	青少年健全育成		
事業名 ・ 取組名	あいさつ運動を通じた健全な社会環境づくり (青少年育成町民会議事業)			所管課	生涯学習課		
				費目	社会教育総務費		
事業費 (千円)	0	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源

目 標	青少年が家庭や地域における人のつながりを大切に作る心や人を思いやる心、命を大切に作る心を持ち、心身ともに健全に育つよう、家庭・学校・地域・行政等の連携強化のもと、積極的に健全育成活動を推進していく。
目的や内容	あいさつすることが人と人との関わりの始まりであり、コミュニケーションの始まりでもあることから、町民一人ひとりがあいさつの意識を高揚し、地域ぐるみで機運を高めていくため、あいさつ運動に取り組む。 また健全な社会環境づくりのために、町内青少年防犯巡回パトロール活動により、小売店等に出向いて有害図書や酒・たばこの取扱状況を把握し、青少年への対応をお願いしながら推進していく。
実績等	小・中学校では、校門で先生方や児童・生徒があいさつ運動を行い、地域においては、通学路で交通誘導及びあいさつ運動を行った。子どもたちは積極的にあいさつができています。 コロナ禍において、夏休み4回・冬休み1回の防犯パトロールや青少年サポート協力認定店運動に伴う10店舗の小売店への巡回点検活動訪問を教育委員会事務局職員のみで行ったが、指導が必要な子どもたちはいなかった。
成果と課題	子どもたちから大人の方へ積極的にあいさつをしている。パトロール中に指導する子どもはいなかった。 今後も、あいさつの意識の向上に向け継続していく必要がある。また、防犯パトロールは、子どもたちの集まりそうな場所や危険な場所等を大人が把握できる利点があり、引き続き実施する。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	コロナ禍において、合同パトロールを中止したが、各地区での交通誘導等、地域・学校・行政が連携した青少年育成活動を推進することができた。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	小・中学校を中心に校門での先生方と児童・生徒のあいさつ運動や通学路での交通誘導及びあいさつ運動は積極的に行われていた。あいさつは心を開く窓であり、これからも推進してほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

令和4年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	青少年健全育成		
事業名 ・ 取組名	地域の教育力の向上			所管課	生涯学習課		
				費目	社会教育総務費		
事業費 (千円)	486	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
				322			164

目 標	青少年が家庭や地域における人のつながりを大切にする心や人を思いやる心、命を大切にする心を持ち、心身ともに健全に育つよう、家庭・学校・地域・行政等の連携強化のもと、積極的に健全育成活動を推進していく。
目的や内容	青少年が家庭や学校以外でも同世代の青少年や異年齢の人々と交流し、自主性や社会性を育てていくことができるよう、放課後子ども教室を開催し、放課後や週末における青少年の居場所づくりを充実させる。地域の指導者が、放課後の小学生を対象としている様々な体験・経験できる教室を開催する。
実績等	小学校の新型コロナウイルス感染防止対策として、令和3年度同様、実施場所を町民センターにて行った。放課後子ども教室を9月から開始してレクリエーションを22回延べ382名の児童の参加者があった。土曜日こどものひろばとして、9月から開始してパステルアートを10回、延べ75名の児童の参加者があった。夏休み及び冬休み子ども教室については、新型コロナウイルス感染者数が増加していたため感染拡大防止を最優先して中止した。
成果と課題	感染防止対策を講じ、令和3年度同様町民センターにおいて実施した。開催時には、感染防止対策として、参加者の検温、手指消毒、換気、用具の消毒等を行った。コロナ禍においても子ども教室、こどものひろばを実施し、定着することができた。令和3年度と比較して、放課後子ども教室、土曜日こどものひろばそれぞれ2教室から1教室のみの開催に減ってしまい、参加者数は令和3年度667名から令和4年度457名へと減少した。今後においては、子ども達の興味関心やニーズに基づき、より充実した事業内容を検討していく必要があるものの指導者不足による定期的に指導していただけの方の確保が喫緊の課題である。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	コロナ禍において厳しい状況の中、放課後子ども教室、土曜日こどものひろばを開催することができた。年間参加者は、令和3年度667名から令和4年度参加者457名と減少したものの事業を定着させることができたことにより、今後においても充実した事業内容を推進する。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	コロナ禍において厳しい状況の中、放課後子ども教室、土曜日こどもひろばでは、年間参加数が減少しているが事業を定着させることができたことは評価できる。今後においても充実した事業内容を推進してほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	スポーツ施設の整備充実			
事業名 ・ 取組名	スポーツ施設の整備・運営			所管課	生涯学習課			
				費目	体育施設費			
事業費 (千円)	60,010	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
						2,488	57,522	

目標	近年、町民の健康・体力づくりに対する関心がますます高まる中、町民のスポーツニーズは増大・多様化の傾向にあるため、すべての町民がそれぞれの年齢や体力に応じたスポーツ活動を行うことができる環境づくりを進める。
目的や内容	中央公園や体育センターをはじめとするスポーツ施設(プール・武道館・テニスコート等)について、老朽化への対応や利用促進に向けた施設・設備の建替も含めた検討を行い、改修等を計画的に進める。 また、管理運営体制の充実を図り、利用者数の増加に向け、利用者が利用しやすい環境整備を進める。
実績等	中央公園についてインクルーシブ複合遊具設置工事32,890千円、ミーティングルーム空調機器更新工事1,076千円、トイレ手洗い衛生水栓6カ所自動洗浄化工事480千円を行った。中央公園の高圧受電設備、トイレ照明制御回路、遊具、体育センターの管理事務所屋根、消防設備機器、照明器具取替、トイレ洗浄管、武道館の屋根、町民プールの水栓修理等2,028千円の修繕を行った。
成果と課題	施設の修理は、利用者の安全を最優先に考え修理を行うことができた。引き続き日頃の点検を継続的に行い、早めに対応できるようにする必要がある。 コロナ禍において利用者数を増やすことは難しいが、感染防止対策を講じた利用の方法など広報活動を強化することが必要である。 スポーツ施設の劣化状況の把握しながら、中長期的な維持管理を行う必要がある。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	複数のスポーツ施設を所有し、老朽化が進む中で、修理を必要とする部分が突発的に発生しているにもかかわらず、随時予算を確保し、安全管理対策を行うことができた。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	今年度は事業費も増え、利用者の安全管理を優先に事業が進められていることに感謝します。町民が安心安全にスポーツを通して楽しみながら体力増進に利用できることを望む。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

令和4年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	スポーツ団体・指導者の育成		
事業名 ・ 取組名	スポーツ団体や総合型スポーツクラブへの支援			所管課	生涯学習課		
				費目	保健体育総務費		
事業費 (千円)	3,833	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							3,833

目標	近年、町民の健康・体力づくりに対する関心がますます高まる中、町民のスポーツニーズは増大・多様化の傾向にあるため、すべての町民がそれぞれの年齢や体力に応じたスポーツ活動を行うことができる環境づくりを進める。
目的や内容	<p>社会教育育成補助団体として、スポーツ協会をはじめ自主的なスポーツ団体の育成・支援に努めるとともに、新たな指導者の発掘・活用に努め、町民のスポーツ活動の活発化を促進する。また、総合型スポーツクラブが自主運営組織として定着し、活発な活動が行われるよう、運営やクラブリーダーの育成について助言・支援を行う。</p> <p>町内の競技団体14種目757名のスポーツ協会は、各種目競技団体への運営補助、県民スポーツ大会の選手の確保や出場手続き、町民スポーツ大会の運営など、本町におけるスポーツ振興の中心的な組織として活動している。総合型スポーツクラブ友遊スポーツかみみねについては、子どもから高齢者の方まで、多世代交流、心と体の健康、生きがいづくりと青少年の健全育成を目指し週5日開催している。</p>
実績等	<p>スポーツ協会については、各種目団体によるスポーツ大会の開催、県民スポーツ大会への出場調整等、スポーツ関連活動を行った。</p> <p>また令和4年11月、新日鉄釜石ラグビー部で活躍された松尾雄治氏を講師にお招きしたスポーツ協会主催の講演会を来場者200名により実施した。</p> <p>スポーツ協会のスポーツ大会や友遊スポーツかみみねのサークル事業、体験教室においては、体温チェック、手指消毒、密閉・密集・密接の回避、人と人との距離の確保等基本的な感染対策の徹底等を講じて取り組むことができた。</p> <p>事業費の内訳としては、スポーツ協会へは活動費899千円と県民スポーツ大会補助金1,160千円、友遊スポーツかみみね1,509千円、スポーツ少年団216千円の補助を行った。</p>
成果と課題	<p>スポーツ協会については、令和4年7月日本スポーツ協会、佐賀県スポーツ協会と目的は同義であることや2024国民スポーツ大会開催を契機として幅広くスポーツの振興を進めること等から上峰町スポーツ協会に改称した。友遊スポーツかみみねについては、健康づくりスポーツ事業の拡充に伴う地域住民間の交流ができています。今後も多様な活動を展開し、地域コミュニティの核としての役割が担えるように事業を検討していく必要がある。</p>

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	スポーツ協会や友遊スポーツかみみねとの連携を行い、スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなど地域スポーツの担い手としての役割を果たしていくための支援をしていく必要がある。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	生涯スポーツの観点から、年齢や体力に応じたスポーツ活動ができる環境づくりや支援活動を推進・継続してほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

令和4年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化芸術の鑑賞会と発表会の充実		
事業名 ・ 取組名	上峰町民文化祭 (上峰町文化協会事業)			所管課	生涯学習課		
				費目	社会教育総務費		
事業費 (千円)	1,151	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							1,151

目 標	文化協会等と連携し、町民文化祭の内容充実に努めるとともに、多様な文化・芸術を鑑賞する機会と活動成果を発表する機会の充実に努める。
目的や内容	文化協会21サークルの日常活動の最大の発表の場が町民文化祭であり、各サークルの目標になっている。この町民文化祭をより盛り上げるために、幼稚園児・保育園児、小・中学生、和太鼓、よさこいなど文化協会以外にも町民参加型により、多くの町民が発表会や展示会に参加できる裾野が広い文化祭を目指す。
実績等	11月1日から11月3日の3日間で第36回町民文化祭を開催し、作品展示では水墨画、生花、写真、書道、編物など870点の作品の出展があった。演芸発表では、23演目で延べ415名の方々が熱演し、975名の来場者があった。新型コロナウイルス感染者数が減少傾向にあったものの感染防止対策を徹底して町民文化祭を実施した。令和4年度、文化協会への補助金338千円、町民文化祭作品展示パネル設営業務費用813千円を支出した。
成果と課題	文化活動の発表、作品展示の場である町民文化祭が新型コロナウイルス感染防止対策を講じて開催することができた。 コロナ禍においてサークル活動の実施は厳しい状況であるが、文化協会会員の高齢化や会員数が毎年減少しているのが現状で、将来の文化協会の担い手となる新たな加入者をどうするか、また、新たな文化・芸術団体サークルの発掘が課題である。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	町民文化祭については、感染防止対策を徹底し、幼稚園、保育園、小学校、中学校から高齢者の方まで町民全員参加型の作品展示、演芸発表等の文化イベントの場として継続開催することができた。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	コロナ禍において、感染予防対策を図りながらの実施は大変だったと思います。町民の文化活動の発表の場として町民文化祭が開催できたことは評価できる。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和4年度主な事業・取組の評価シート

令和4年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	生涯学習関連施設の適正管理・利用促進			
事業名 ・ 取組名	ふるさと学館の充実			所管課	文化課			
				費目	ふるさと学館費			
事業費 (千円)	18,887	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
						7	18,880	

目標	管理運営体制を拡充し、展示内容の充実や企画展・特別展の開催、学校教育との連携、各種歴史・文化講座・読み聞かせ講座の開催等を進め、本町の歴史・文化の研究拠点、情報発信拠点として機能の強化を図る。
目的や内容	町民のニーズに即した蔵書の充実 子どもの集いの場、生涯学習拠点として機能強化を図り、幅広い年齢層へのサービスの提供をし、利用者増を図る。
実績等	蔵書冊数は、計画的購入により、平成30年度(56,630冊)・令和元年度(56,938冊)・令和2年度(57,490冊)・令和3年度(57,926冊)・令和4年度(58,181冊)と毎年増加している。 貸出冊数は、平成30年度(40,985冊)・令和元年度(39,938冊)・令和2年度(35,676冊)・令和3年度(42,668冊)・令和4年度(44,049冊)となり、コロナウイルス発生前の数値を上回った。 利用者数は、平成30年度(7,801人)・令和元年度(7,212人)・令和2年度(6,125人)・令和3年度(7,477人)・令和4年度(7,681人)となり、増加傾向となってきた。 郷土資料館の展示室は、令和2年度に子ども支援センターとして改修したため閉鎖中である。
成果と課題	・読者のニーズに沿う選書による新書と読者の要望に応えるリクエスト本の購入及び時節・時事に応じ「源為朝」や「藤井聡太棋士と将棋」に関するコーナーを令和3年度に引き続き設置、家読の推奨を広報紙に掲載した結果、蔵書冊数、貸出冊数及び利用者数が増加したと推測する。 ・2ヶ月児相談日に実施しているブックスタート事業では、令和4年度は参加者63人に絵本のプレゼントと読み聞かせを行った。家庭での読み聞かせと図書館利用に期待をしている。 ・児童書の貸出冊数は増加したが、児童生徒の図書館利用が減少したため、読書の習慣づけと楽しさを広め、図書館利用の促進を図らなければならない。 ・閉鎖中の展示室の代替施設等について検討しなければならない。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	蔵書冊数、貸出冊数及び利用者数は、令和3年度と比較するといずれも増加した。利用者数の内訳を見ると児童生徒の利用が減少したため、若年層向けに趣向を凝らした図書館事業の運営に取り組まなければならない。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者評価	評価の結果	
	達成	ここ数年、蔵書冊数、貸出冊数及び利用者数は、徐々に増加の一途を歩んでいる。しかし、児童生徒の利用が減少していることには、趣向を凝らした運営に工夫が必要だと思ふ。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

令和4年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化財の保存・活用		
事業名 ・ 取組名	町内遺跡確認調査事業(試掘)			所管課	文化課		
				費目	文化財保護費		
事業費 (千円)	4,045	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
			2,000	720			1,325

目 標	指定文化財の適正な保存及び維持管理に努めるとともに、その他の文化財や埋蔵文化財についても、調査体制の充実のもと、発掘調査等を推進し、その保存・活用を図る。
目的や内容	国庫補助事業の適用を受け、町内全域における開発行為に伴い事前の埋蔵文化財確認調査を実施。この調査により開発対象地区内の埋蔵文化財について概要を把握し、開発と埋蔵文化財保護との調整を図る。
実績等	開発届出等件数64件、うち確認調査実施件数22件であった。確認調査実施の結果本調査に至る現場はなかった。 また、令和3年度分の調査について整理作業を実施し、調査報告書を刊行した。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・開発に伴い、事前の埋蔵文化財確認調査を実施し、工事立会や慎重工事の指示を行い、文化財保護との調整を図った。 ・今後の課題として、無届着工の開発について適正に対処する必要がある。 ・文化財保護法の規制外となる「周知の埋蔵文化財包蔵地」外の開発行為について、鳥栖・三神地区内で対応を協議し、一定の基準を整備する必要がある。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	開発に伴う事前の埋蔵文化財確認調査を実施し、工事立会や慎重工事の指示を行い、文化財保護との調整が図れた。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	今後とも、文化財を将来にわたって、保存・活用するために、適切な調査・発掘を推進してほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

令和4年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化財の保存・活用		
事業名 ・ 取組名	民俗芸能等伝統文化事業			所管課	文化課		
				費目	文化財保護費		
事業費 (千円)	832	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							832

目 標	米多浮立やみやき町西乃宮などの無形民俗芸能等伝統文化財について、保存団体の育成・支援や環境整備等を行う。
目的や内容	米多浮立やみやき町西乃宮などの無形民俗芸能等伝統文化財について保存団体の育成を行い、積極的な保存・伝承に努める。
実績等	○米多浮立保存会商標使用料 273千円 米多浮立保存会へ奉納、運営経費等として、ふるさと納税事業での「天衝米」の名称使用に伴い商標使用料を支払った。 ○みやき町西乃宮伝統文化保存会補助 0千円(例年は68千円) 本年は、東分・田島地区で稚児舞を奉納予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止となり、活動実績がなく交付申請書が提出されなかった。
成果と課題	後継者不足で出演者が不足している状況である。特に、中高生をはじめ若手の後継者育成が急務である。また、浮立鉦についても経年劣化によるひび割れや形状の変異等が生じ本来の音色を失っている。 小・中学校の「総合的な学習の時間」においてVTRによる講義を行い、米多浮立に対する興味・関心を喚起し、保存伝承と後継者育成に努めている。また、コロナウイルス感染拡大のため体験活動支援は実施できなかったが、コロナが終息した際には再開し継続する。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	保存団体の育成として、「天衝米」の名称使用に伴い、商標使用料を支払っている。 補助事業等を活用し、装備品等を補修・購入するための申請手続きの補助に努めなければならない。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	新型コロナウイルスはいろいろな事業に影響を及ぼし、本年度実施予定の稚児舞が実施できなかったのは残念である。伝統文化継承の担い手育成や事業存続のための装備品の補修・購入等の申請手続きに努めてほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

令和4年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化財の保存・活用		
事業名 ・ 取組名	鎮西山城跡発掘調査			所管課	文化課		
				費目	文化財保護費		
事業費 (千円)	64,463	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							64,463

目 標	鎮西山再整備計画に伴い、山頂付近で地下の埋蔵文化財に工事の影響が及ぶ範囲について、埋蔵文化財の記録保存を目的とした調査を行い、埋蔵文化財の保護に努める。また、城址公園整備のための資料データの収集に努める。
目的や内容	鎮西山再整備計画に伴い令和2年度に試掘調査、令和3年度に本調査を行ったが、より詳細な調査を実施し、城址公園として整備するための資料データの収集を行う。
実績等	令和4年10月14日から令和5年3月24日を業務期間とし業務委託による調査を行っていたが、調査の過程において、更に貴重な遺構が発見されたため追加調査が必要となり、委託料の増額(30,935千円)し業務期間を令和5年10月31日まで延長することとなり、令和5年度に予算を繰越した。
成果と課題	調査過程において、大規模な堀切の一部と柵跡の可能性のある土塁上の柱穴が新たに発見された。門・木戸などの山城への入口部分と施設、主郭から副郭への通路(土橋)が確認できなかったため、鎮西山城の復元整備の精度充実に図るために令和5年10月まで予算の増額と調査期間を延長し現在も継続調査中である。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	令和5年度現在も継続調査中だが、工程どおりに進捗しており、8月中には発掘調査が完了する予定である。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	鎮西山の山城跡の発掘には興味深々です。堀の遺構や土塁の跡には、当時の技術としては高い技術がなされていたと話題になったことは、ますます興味が沸いた。8月中には発掘調査が完了する予定なので調査結果を早く知りたい。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

令和4年度主な事業・取組の評価シート

				主要施策	文化財の保存・活用		
事業名 ・ 取組名	鎮西山城跡発掘調査整理作業			所管課	文化課		
				費目	文化財保護費		
事業費 (千円)	21,460	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
			10,724				

目 標	令和3年12月21日から令和4年3月22日を業務期間とし業務委託を行った鎮西山城跡発掘調査に係る整理作業と報告書を刊行する。
目的や内容	令和3年12月21日から令和4年3月22日を業務期間とし業務委託を行った鎮西山城跡発掘調査に係る整理作業(遺物の洗浄、実測、図版作成)及び報告書作成業務を業務委託した。
実績等	当初の契約期間は令和4年1月24日から令和4年3月22日までだったが、発掘調査の過程において、当初の予想を超える重要遺物が発見されたため、遺物実測作業、遺物実測図のトレース作業、遺物写真撮影等の作業が増加し、当該年度での報告書刊行が困難となったため、業務期間を令和4年10月31日まで、契約金額を779,900円(税込)増額する変更契約を締結し業務を完了した。
成果と課題	委託料の増額と業務委託期間の延長があったが、無事に整理作業と報告書の刊行ができた。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	委託料の増額と業務委託期間の延長があったが、発掘調査の実績に伴う避けようのない事態だった。無事に整理作業と報告書の刊行ができた。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	当初の予想を超える重要遺物が発見されたことにより、新たな経費が掛かるのは避けられない事態だったとことでしょう。でも、無事に整理作業と報告書の刊行ができたことはよかった。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		